

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	施用の目安等
有機質資材 施用技術	<p>○たい肥等有機質資材施用技術 土壌診断に基づき、適切に完熟たい肥等を施用する。</p> <p>○緑肥作物利用技術 緑肥作物（ソルゴー等）を栽培し、作付け前にすき込む。</p>	2 t/10 a
化学肥料 低減技術	<p>○局所施肥技術 局所施肥により肥効率を向上させる。</p> <p>○有機質肥料施用技術 有機質肥料（油かす等）を用いた施肥体系とする。</p>	化学合成窒素量 ・春播き 9月播き 10月播き 7.0kg/10a 以内 ・11月播き 9.5kg/10a 以内
化学農薬 低減技術	<p>○機械除草技術 除草機械により雑草（畦畔での害虫発生助長植物も含む）を駆除する。</p> <p>○生物農薬利用技術 生物由来の有効成分である農薬の利用により病害虫を駆除する。 ・生物農薬：BT剤(コガ)など</p> <p>○土壌還元消毒技術(施設) 土壌中の酸素濃度を低下させることにより土壌病害虫を駆除する。</p> <p>○熱利用土壌消毒技術(施設) 蒸気、太陽熱などの利用により土壌病害虫を駆除する。</p> <p>○光利用技術 色彩資材により害虫を捕殺する。 黄色蛍光灯、光反射資材利用により害虫の活動を抑止・忌避させる。</p> <p>○被覆栽培技術 被覆資材により有害動植物の付着を防止する。 ・紫外線カットフィルム（アブラムシ類） ・防虫ネット(コガ)など</p> <p>○マルチ栽培技術 紫外線反射マルチ、生分解性マルチ、稲わら等利用により有害動植物のまん延防止する。</p>	化学合成農薬成分回数 ・春播き 9月播き 11月播き 2成分以内 ・10月播き 3成分以内
その他の留意事項 有機質資材施用で肥料効果が期待できる時は減肥する。 連作障害回避のため、水稻栽培も含めた輪作に努める。		